

世子尚豊の、進貢のため正議大夫蔡延等を遣わす符文

(一六二六、二、九)

琉球国中山王世子尚(豊)、進貢の事の為にす。

今、特に正議大夫・使者・通事等の官の蔡延等を遣わし、咨を捧じ表を齎しむ。船隻に坐駕し、馬四匹・硫黄一万斤を載運して京に赴き進奉す。差去する員役は、別に文憑無くば誠に所在の官司の盤阻して便ならざるを恐る。合行に給照すべし。今、仁字第十三号半印勘合符文を給し、都通事鄭藩猷等に付し収執して前去せしむ。如し経過の関津把隘の去処及び沿海巡哨の官軍の驗実に遇わば、即便に放行し、留難し遅悞して便ならざるを得しむる毋れ。須らく符文に至るべき者なり。

計開 赴京の

正議大夫一員 蔡延 人伴八名

使者一員 馬加美 人伴五名

都通事一員 鄭藩猷 人伴四名

存留在船使者二員 倪士 加寿者 人伴四名

存留在船通事二員 紅春貴 梁廷標 人伴四名

管船火長・直庫 二名 加里 馬使

右の符文は都通事鄭藩猷等に付し、此れに准ぜしむ

附搭の土夏布二百匹

天啓六年(一六二六)二月初九日給す

符文

注* 『明実録』天啓六年八月壬戌、十月甲寅、十一月辛巳、七年二月丁巳、三月乙未の各条が関連する記事か。

(1) 紅春貴 一五九五—一六二九年。久米村紅氏(和字慶家)七世(『家譜(二)』二〇二頁)。

1-26-22

世子尚豊の、皇帝即位の慶賀のため王舅毛泰時等を遣わす符文(一六二九、一、二九)

琉球国中山王世子尚(豊)、登極を慶賀する事の為にす。

今、特に王舅・長史・使者・通事等の官の毛泰時・蔡錦等を遣わし、咨を齎し表を捧ぜしむ。船隻に坐駕し、任土の方物の全光金鞘金起沙魚皮紋靶腰刀二把・全光銀鞘銀起沙魚皮紋靶腰刀二把・金缶一合共に重さ六十六兩六錢八分・銀缶一合共に重さ五十兩六錢正・細嫩土蕉布一百匹・漂白土苧布一百匹・泥金彩画帷屏一合・平面金扇五十把・平面銀扇五十把・紅花一百斤・胡椒二百斤・蘇木一千斤を装載し、皇帝陛下に進奉す。復た、金粉匣一合共に重さ七兩四錢六分・銀粉匣一合共に重さ七兩二錢一分・平面